

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

子育て支援施策と生涯学習施策による中心市街地の再生

2 地域再生計画の作成主体の名称

長野市

3 地域再生計画の区域

長野市全域

4 地域再生計画の目標

長野市は、わが国のほぼ中央に位置する長野県の県都で、古代から文化の開けた地、国宝善光寺の門前町として知られている。平成17年1月1日の合併により、面積は約739 k m²、人口は38万人を超えている。

しかし一方では、少子高齢化・核家族化の進行や人口移動等に伴って、地域がこれまでに築き上げてきたコミュニティ機能が低下し、生活や文化を育んできた地域社会の連帯感が薄れている現状にある。

具体例を挙げれば、全国の地方中核都市と同様に中心市街地は衰退を続け今般地域再生計画の対象となった中心市街地地区の人口は、昭和60年12月から平成17年12月までの20年間に21%減少している。また、この地域は、本市の中で、かつては商店が集中し、大規模小売店舗の集中も見られていた地域である。

このため、平成11年9月に「長野市中心市街地活性化基本計画(長野地域)」を策定し、市内の約30課による約80事業を実施しているところである。本市が国土交通省からまちづくり交付金の交付を受け、平成18年10月1日に開所させる長野市生涯学習センターは、その事業の一つである。

一方、本市における年少人口は、同じ昭和60年12月から平成17年12月までの20年間に27%減少、構成率も22%から15%へと減少している。そこで本市では、子育て支援を最重要課題と位置づけ、「長野市次世代育成支援行動計画」を策定し、子育て支援を行うNPOや高等教育機関等と連携して、総合的な子育て支援施策を実施している。

具体例を挙げれば、こども広場「じゃん・けん・ぽん」は、旧ダイエー長野店ビル(もんぜんぷら座)を活用した中心市街地活性化対策の一環の事業として平成15年6月に開設し、もんぜんぷら座館内では、随一の集客力を誇るなど、一定の成果をあげているところである。

また、市民カレッジにおいては、長野県短期大学地域連携センターと連携し、平成18年度から講義を子育てに関連する内容で実施し、「行動計画」に沿った市民に一層魅力のあるものとして、聴講者の増加を図っている。

こうしたことから、本計画区域において、子育て支援施設の活用、生涯学習の活性化を手段とした中心市街地の活性化、全市を対象とした少子化対策の実施を本地域再生計画の目標とするものである。

(目標1) こども広場「じゃん・けん・ぽん」年間利用者数

平成15年度(実績)	58,763人
平成16年度(実績)	66,492人
平成17年度(実績)	57,430人
平成19年度目標数値	58,000人

(目標2) 「市民カレッジ」受講者数

平成18年度(実績)	329人
平成19年度目標数値	400人

(目標3) 生涯学習センターの利用者数

平成18年度(推定)	40,000人(10月～3月)
平成19年度目標数値	82,000人(通年)

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

集客能力の落ちた中心市街地は、別な言い方をすると、訪れる魅力、行く用事のないまちであると言える。中心市街地に行こうとする人を増やすため、乳幼児とその親にとっての子育て支援施設が、また、学校を終えた多くの世代の人にとっての生涯学習センターが、その目的施設となり得る。つまり、訪れるまちの魅力を再生することが、即ち中心市街地の活性化そのものであると考えるものである。

子育て支援の観点からは、将来を担う子どもたちが、健やかに生まれ育つことを目的とする「長野市次世代育成支援行動計画」(平成16年度策定)に基づき、安全・安心な子育て環境づくりを推進し、地域の子育てネットワークの形成や、子育て支援者の育成など、様々な視点から子育て支援に関する土壌を豊かにし、地域における子育て・子育ての力を育てる場の充実を図っている。

こども広場「じゃん・けん・ぽん」は、中心市街地の大規模小売店舗が撤退した後利用施設「もんぜんぷら座」の2階部分を活用し、市内各地から集まる乳幼児とその保護者同士の交流や「じゃん・けん・ぽん」を利用する親子と長野県短期大学生との多彩なふれあい交流事業を行うほか、市内のNPO法人「ながのこどもの城いきいきプロジェクト」による子育て相談・各種講座・イベントを行い、子育てへの関心・理解を高め、地域全体で子育て家庭を支える、様々な子育て支援情報を提供する拠点となるものである。

一方、生涯学習の観点からは、高等教育機関との連携による事業実施が挙げられる。本市では、従来から「長野市生涯学習基本構想・基本計画」(平成13年4月策定)に基づき、子どもから大人までみんなの「学びあい」、さまざまな人の出会いと「ふれあい」、学習成果の「いかしあい」を大切にした、住みよいまちづくりを進めており、中心市街地のほぼ中央のTO i GO(トイゴ)WEST(商業棟)の3、4階に、「長野市生涯学習センター」を平成18年10月に開設する運びとなった。ここでは市民と行政の協働のまちづくりの一層の推進を図るために、開設する講座等は、生涯学習の成果がまちづくり、地域づくり

に生かせる内容で行うことを主眼に、長野県短期大学や信州大学などの市内高等教育機関のもつ人的、知的、物的資源等の活用を図っていくものである。

本市では、昭和52年から長野県短期大学と連携して「市民カレッジ」事業に取り組み、定着が図られつつあるが、会場の制約などから、受講生数が伸び悩んでいる状態であった。

この度、「長野市生涯学習センター」の開設に併せて、本事業を同センター内で開催し、同センターの持つ特性を十分に活かすことで、受講しやすい環境を整備するとともに、学生の事業運営への参加など長野県短期大学との連携を強化し、受講生の増加につなげ本市における生涯学習活動の向上を図る。

5-2 法第4章の特例の措置を適用して行う事業

該当無し

5-3 その他の事業

〔B0802〕現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）（文部科学省）

(1) 実施主体

長野県短期大学

(2) 実施年度

平成18年度から平成19年度

(3) 取組内容等

長野県短期大学では、保育士、幼稚園教諭、中学校教諭、学校図書館司書教諭および図書館司書など、子どもの成長・発達や教育に係る免許・資格取得課程を置き、子どもとの関わりを重視した特色ある教育が実施されてきた。また、平成16年度に新設された多文化コミュニケーション学科の国際地域文化専攻には、「多文化主義論」、「国際政治論」などの科目が設置され、国際的な視点を加えた乳幼児から中学生を対象とするカリキュラムの充実を図り、平成18年度から開始された専攻科幼児教育学専攻のカリキュラムの中には、「多文化保育」、「家族援助論」などの学科目を設けるなど、子どもとの関わりを重視したカリキュラムの充実が進められている。

このような長野県短期大学の特色あるカリキュラムと連携しながら、地域からのニーズに応えていくため、本取組では、まず全学科・専攻の教育課程の子どもと係る授業科目の中に地域の親子と交流する機会を積極的に設定し、多様な親子とのふれあい体験を行う中で、学生自身の子ども観を育成し、地域のニーズに根ざした人材の育成を図る。

取組の実施にあたっては、平成18年度に発足した長野県短期大学地域連携センターが中心となり、長野市および各種の市民団体と連携する体制を整備し、長野市民の次世代育成支援と結びつけた企画（「市民カレッジ」など）を計画・実施する。計画・実施する企画の中には、以前から課題とされてきた外国籍の子どもとのコミュニケーション力育成支援など地域の子育てサポートへの学生の参画も加える。

地域の親子との交流は、長野県短期大学の施設、長野市が中心市街地活性化のた

めに市民と協働で運営する「もんぜんぷら座」やその近隣に建設中の長野市生涯学習センター（平成18年10月竣工予定）を活用する。

長野市では長野県短期大学と連携した地域づくりを推進するため、保健福祉部及び教育委員会内に窓口を設置し、本計画の事業に関して市の事業担当課と大学との円滑な連携ができるよう調整を行う。

(4) 地域再生計画と取組実施計画の関係

平成18年度実施計画

授業科目と直接関連した取組	内 容	参加対象	場 所
「指導法の研究」	ボランティア団体、現場保育士、付属幼稚園と連携した人形劇の取組を生かした授業	・ ボランティア団体、現場保育士 (3人程度) ・ 学生 (44人)	・ 本学教室 ・ もんぜんぷら座内「こども広場」 ・ 付属幼稚園の教室
「総合演習」	「子どもと人権」 「子どもと異文化」 「子どもと地球環境」等をテーマとした演習	・ 学生 (10人程度)	・ 本学教室 ・ もんぜんぷら座内「こども広場」

地域連携センターが主体となる取組	内 容	参加対象	場 所
市民カレッジ	・ テーマ「子どもを考える一次世代の子ども観をもとめて」	・ 一般市民 ・ 学生 (講義内容と関連した科目履修者内の希望学生)	・ もんぜんぷら座
世界の子ども写真展	写真家を招いての講演と写真の展示	・ 一般市民 ・ 学生 (託児所支援)	・ 長野市生涯学習センター

平成19年度実施計画 (平成18年度に実施するもの以外の新たな計画)

授業科目と直接関連した取組	内 容	参加対象	場 所
「ポルトガル語」	第二外国語のポルトガル語を使ったブラジル人親子との交流	・ ブラジル人親子 ・ 学生 (10人)	・ 本学教室 ・ もんぜんぷら座

地域連携センターが主体となる取組	内 容	参加対象	場 所
市民カレッジ	・外国籍児童など、多文化共生の視点も交えて、平成18年度のテーマを発展させる	・一般市民 ・学生（講義内容と関連した科目履修者内の希望学生）	・長野市生涯学習センター

(5) 地域再生計画の取組事業内容

こども広場「じゃん・けん・ぼん」における学生と子どもとのふれあい体験

こども広場「じゃん・けん・ぼん」における子育て支援事業により中心市街地の再生・再活性化を図るためには、「じゃん・けん・ぼん」の利用者数を維持または増やしていくことが必要であり、そのために、実施事業内容の充実を図るほか、長野県短期大学生をはじめとする学生等との多様な交流事業、ボランティアの受入れ等を行う。

「市民カレッジ」の一層の活性化

本市と長野県短期大学との連携事業として、昭和52年から実施してきた市民一人ひとりが自己の実現に向け意欲的に学ぶことを趣旨とした、「市民カレッジ」の講座開催時間を従前の平日夜間から、土曜、日曜午後の開催を視野に入れて講座開設数の拡大を図る。

託児施設の設置が可能な「長野市生涯学習センター」に開催会場を移すとともに、長野県短期大学生による託児を実施するなど市民が受講しやすい環境を整備し、新たな受講生の拡大を図っていく。このことは長野県短期大学の学生にとっても、地域の親子と直接ふれあう機会が得られるとともに、将来の父親・母親としての豊富な子ども観の形成ができ、また運営への参画も体験できるなど、得るべきものは多いと考える。

生涯学習センターの活用

市民一人ひとりが意欲的に学べる環境を整備することにより、専門的な知識技能を修得した市民が、生涯学習ボランティアや生涯学習指導者として地域への知恵・知識の継承を進めるため、「長野市生涯学習センター」を開設し、自ら活動する市民のサポート拠点として積極的な利活用を図る。また、社会経済情勢の変化等により遊休化した大規模小売店舗の後利用を図った、NPO等諸団体の活動拠点施設「もんぜんぶら座」との相互連携により、生涯学習と市民活動の相乗効果を生み出すことで、中心市街地の再生を図る。

6 計画期間

認定の日から平成20年3月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す数値目標について、計画終了後に調査を行い状況を把握・公表するとともに、

達成状況の評価・改善すべき事項の検討等を行う。

- 8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項
該当無し